

# 日本福祉介護情報学会ニュース

2010年度第3号

2011年1月28日

発行：日本福祉介護情報学会

( <http://jissi.jp> )

埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学コミュニティ福祉学部

森本研究室内 [jissi-mail@e-wel.ne.jp](mailto:jissi-mail@e-wel.ne.jp)

## 【目次】

1.	第11回研究大会を終えて	1
2.	総会報告	3
3.	福祉情報の動向：業界初！ ISO27001/ISMS認証取得の意義	5
4.	ホームページ委員会報告	6
5.	学会紀要「福祉情報研究」について	7
6.	追悼 開原成允先生を偲んで	7
7.	事務局から	8
	(編集後記)	8

## 1. 第11回研究大会を終えて

日本福祉介護情報学会理事・第11回研究大会 事務局

(関西学院大学) 生田 正幸

第11回研究大会は、2010年12月12日(日)、大阪市北区茶屋町の関西学院大学梅田キャンパスにおいて、大会テーマ「福祉・介護の実践としての情報の活用 ―高齢者介護サービスの効率化と安定化―」のもと、52名の参加を得て開催されました。内容は次の通りです(以下、敬称略)。

《自由研究発表》10:35~12:40

### ■第1会場：

- ①高齢者介護サービスにおける記録情報活用方法の検討：生田正幸(関西学院大学)
- ②高齢者福祉介護の社会システムにおけるインターネットメディア活用方法の研究報告：三浦建太郎(立教大学大学院)
- ③特別養護老人ホームにおけるパブリック・リレーションズの手法開発に関する研究～特別養護老人ホームが利用者に発信しているサービス情報の傾向分析～：北舘一弥(東京福祉大学大学院)
- ④福祉サービス利用者への記録開示に関する一考察：飯村史恵(立教大学)

- ⑤CMC (Computer-Mediated Communication) が援助交際に与える影響 — I 県内における高校生と大学生の調査結果から：鈴木千紘 (岩手県立大学大学院)・小川晃子 (岩手県立大学)

■第2会場

- ①京都市左京区おもいやり事業における介護サービスの ICT 利活用による業務改善の分析：田井義人 (摂南大学大学院)
- ②病院、介護施設、在宅間の情報連携を、SaaS 型電子カルテで実現する：姫野信吉 (八女発心会 姫野病院)
- ③在宅医療・在宅介護の多職種連携における支援者間の要求関係の可視化 — “Actor Relationship Matrix” と “Wish List” を用いた手法による検証—：山崎孝博 (株式会社 NTTデータ)
- ④福祉・介護サービス事業所における評価支援担当者の役割と課題について — 第三者評価における受審事業所職員へのアンケート調査からの一考察—：村田道彦 (秋田看護福祉大学)

《基調講演》 14:10～14:50

「地域ケアの展望と情報化 ～生活圏域での地域密着サービスの視点から～」

森本佳樹 (立教大学)

《シンポジウム》 15:00～17:15

「福祉・介護の実践としての情報の活用 —高齢者介護サービスの効率化と安定化—」

- ①青森県社会福祉協議会における緊急通報システムと“おげんき”発信の一体化  
小川晃子 (岩手県立大学)

- ②音声入力を活用したケアプラン業務効率化への取り組み

小笠原あゆみ (サイバークラーク研究所)

- ③ITを活用した24時間訪問介護サービス効率化への取り組み

米澤麻子 (NTTデータ経営研究所)

コメンテーター：高橋紘士 (国際医療福祉大学大学院)

コーディネーター：生田正幸 (関西学院大学)

今大会は、少子高齢化がもたらす極めて大きな困難がいよいよ現実のものとして私たちの前に立ちはだかり、社会保障、介護、福祉、医療、保健をめぐる状況が深刻の度合いを増すなか、福祉・介護分野におけるICT化・情報化の可能性と課題について議論することで、問題意識を改めて整理し、今後のあり方について認識を深めるべく企画しました。

幸いなことに、例年を上回る自由研究発表の申し込みがあり、それぞれの研究発表の水準も高く、積極的な質疑・意見交換が行われるなど、有意義な研究成果の共有と

議論を交わすことができました。2会場に分割せざるを得なかったため、例年のような一体感のある集中した場として展開できなかつたことが惜しまれますが、それを補って余りある成果をお持ち帰りいただくことができたと思います。

また、事務局長として学会大会の際は常に多忙であるため、なかなか機会を設けることができなかつた森本副代表理事の基調講演を実現することができ、地域ケアに関する認識と情報化への展望をお話いただけたこと、シンポジウムにおいて高齢者介護分野のICT化・情報化をめぐる国の動きと重ね合わせながら、高齢者介護サービスの効率化と安定化に向けた最新の取り組みについてスピーカーをお招きし議論できたことも、たいへん有意義であったと評価をいただきました。

参加者の方々の研究と実践に向けた問題意識を高めることができ、新たな意欲と活力を見いだしていただけたこと、さらには大会テーマについての議論の深まりに安堵し、ご尽力いただいた発表者・参加者・事務局関係者各位に厚くお礼申しあげます。

なお、今大会については、シンポジウムを中心に記録をとりまとめ、学会紀要臨時増刊号として会員の皆さまに配布する予定です。

## 2. 総会報告

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
(立教大学) 森本 佳樹

2010年12月12日(日)の日本福祉介護情報学会第11回研究大会において会員総会が開催され、以下の議案について協議し、承認されたので報告します。

### 《報告事項》

(1) 会員加入状況(2010年3月31日現在)

個人会員 122名 学生会員 15名 名誉会員 1名

(2) 研究紀要『福祉情報研究第6号』『福祉情報研究第7号』について

(3) 研究紀要『福祉情報研究第8号』への投稿依頼

(4) 各種委員会の活動状況について

①研究紀要『福祉情報研究』編集委員会

②ホームページ委員会

③情報提供体制検討委員会(仮称)の設置

(5) 『福祉・介護の情報学』の続編について

### 《審議事項》

(1) 2009年度事業報告・決算(下記の通り)

(2) 2010年度事業計画・予算

### 《その他》

(1) 2011年度研究大会の開催について

日本福祉介護情報学会 2009 年度決算				自 2009.04.01 ~ 至 2010.03.31
《収入の部》				(単位：円)
項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1 入会金収入	140,000	8,000	132,000	
1-1 正会員	30,000	6,000	24,000	@3,000×2 人
1-2 学生会員	10,000	2,000	8,000	@2,000×1 人
1-3 法人会員	100,000	0	100,000	@100,000×0 社
1-4 賛助会員	0	0	0	@30,000×0 人
2 会費収入	860,000	636,000	224,000	
2-1 正会員	600,000	512,000	88,000	@6,000×85 人分 (実 78 人)
2-2 学生会員	60,000	24,000	36,000	@3,000×8 人分 (実 6 人)
2-3 法人会員	200,000	100,000	100,000	@100,000×1 社
2-4 賛助会員	0	0	0	@30,000×0 人
3 参加費収入	60,000	118,000	△ 58,000	
3-1 参加費収入	60,000	118,000	△ 58,000	9/5 学習会参加費 68 名分
4 雑収入	7,000	621,127	△ 614,127	
4-1 雑収入	7,000	621,127	△ 614,127	預金利子・資料頒布・大会剰余金・印税
5 繰越金	4,540,000	4,881,208	△ 341,208	2008 年度決算額
5-1 基本財産繰越金収入	1,140,000	1,150,000	△ 10,000	
5-2 前年度繰越金収入	3,400,000	3,731,208	△ 331,208	
合計	5,607,000	6,264,335	△ 657,335	
《支出の部》				
項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1 事業費	1,490,000	1,181,250	308,750	
1-1 理事会開催費	350,000	421,270	△ 71,270	理事会 3 回分、渉外用冊子追加購入分
1-2 研究大会助成費	350,000	0	350,000	不使用
1-3 委員会費	460,000	525,105	△ 65,105	冊子 200 冊購入配布代金
1-4 紀要発行費	230,000	204,675	25,325	テープリライト 2 件、印刷代 9 万 6 千円
1-5 学習会開催費	100,000	30,200	69,800	9/5 学習会謝礼・消耗品
2 事務費	250,000	54,898	195,102	
2-1 什器・備品費	30,000	588	29,412	選挙事務費用
2-2 印刷費	90,000	0	90,000	不使用
2-3 通信費	100,000	54,310	45,690	ニューズレター・会費請求送料他
2-4 事務補助員費	30,000	0	30,000	
3 繰越金	1,280,000	5,028,187	△ 3,748,187	
3-1 基本財産繰越金	1,280,000	1,158,000	122,000	入会金及び入会金繰越充当
3-2 次年度繰越金	0	3,870,187	△ 3,870,187	
4 予備費	2,587,000	0	2,587,000	
合計	5,607,000	6,264,335	△ 657,335	

### 3. 福祉情報の動向： 業界初！ISO27001/ISMS 認証取得の意義

日本福祉介護情報学会 会員

(社会福祉法人光照園 江戸川光照苑) 水野 敬生

江戸川光照苑は、江戸川区の最北に位置する北小岩にあり、遺跡や渡し跡、旧道などの多様な歴史の中に、暮らしの温もりとにぎわいのある下町情緒溢れる地域に、1996年7月に開設し、今年で15年という節目を迎える特別養護老人ホームです。

江戸川光照苑では、2009年6月に区内で初めて品質の国際規格であるISO9001の認証を取得し、介護サービスの質の向上に力を注いできたところですが、この度、2010年12月16日に、社会福祉法人が設置経営する介護事業において、国内で初めて情報セキュリティ体制の国際規格ISO27001/ISMSの認証を取得しました。

ISMSとは、Information Security Management Systemの略で、日本では、2002年4月にISMS認証制度(情報セキュリティマネジメントシステム適合性評価制度)を発足させたもので、2006年にISO27001をもとに本格的にISO27001の認証が開始され、ISMS適合性評価制度は、その後1年半の移行期間をもって、終了することとなりました。

ISO27001/ISMSは、企業や組織が自身の情報セキュリティを確保・維持するために、ルールに基づいたセキュリティレベルの設定やリスクアセスメントの実施などを継続的に運用する枠組みで、組織全体に渡ってセキュリティ管理体制を構築・監査し、リスクマネジメントを実施することです。

ISO27001/ISMSは、情報システムの物理的セキュリティ面だけでなく、データの略号化やインフラの構築などの技術面や、職員教育などの組織管理面も含め、情報に関わる自施設のリスクを洗い出し、それを管理するツールです。

施設全体においても、ご利用者の情報の保護は大切なことですし、「利用者情報の保護」は、江戸川光照苑に限らず、あらゆる施設においても自施設の介護サービスを快適にご利用いただくための要件の一つであることは、いうまでもありません。

昨年11月には、大阪府池田市で施設から備品のデジタルカメラが盗まれ、複数の幼児を撮影した写真200枚以上が路上にばらまかれた事件や、群馬県介護研修センターの職員が、旧高齢者介護総合センター利用者の個人情報や業務資料などが保存されたUSBメモリを紛失した問題など、医療・福祉分野においても情報セキュリティインシデントが継続的に発生していることなどから、情報漏洩というリスクはご利用者に対する重大な人権侵害といえます。(表1参照)

つまり、情報漏洩というリスクに対して、それらを予防し、防止していくことが、今後施設や事業所は真剣に取り組んでいかなければならない新たなリスクマネジメントとして認識していく必要があるといえるのではないのでしょうか。

また、政府が策定する「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準」の中では、委託先の要求事項としてISO27001/ISMSが求めることを盛り込まれ、他の地方自治体、さらには、民間企業に対する参考基準として推し進めることなどからも、組

織の内部統制の一環としての情報セキュリティへの要求が高まっています。

介護福祉の業界にあっても、こうした社会の動き、あるいは、関係する業界の動きにも注意をはらっておく必要がありますし、何より施設をご利用いただく方々の人権を如何に安全に守っていくかが、大切になってきているのだと思います。

表 1. 医療・福祉分野のインシデント件数の経年変化

年	件数
2005	54 件
2006	42 件
2007	73 件
2008	91 件
2009	64 件

「2009 年 情報セキュリティインシデントに関する調査報告書 第 1.1 版」(NPO 日本ネットワークセキュリティ協会) より筆者作成

#### 4. ホームページ委員会報告

日本福祉介護情報学会理事・HP 委員会担当  
(田園調布学園大学) 村井 祐一

ホームページ委員会は、ホームページの更新担当者が複数名となったため更新の速度を高めることができるようになりました。これまで以上に関係領域の情報発信や学会活動に関する情報提供の充実を図っていこうと考えています。

一方で、会員用ページが機能しておらず、リンク集なども未整備であるため、ホームページのリニューアルも視野に入れながら、本年度および来年度に向けたホームページ運営の充実に向けた検討を行っています。

ホームページ運用に関してご意見・ご要望などがありましたら、webmaster@jissi.jp までご意見をお寄せください。

## 5. 学会紀要「福祉情報研究」について

日本福祉介護情報学会理事・学会誌編集委員会

(関西学院大学) 生田 正幸

(北翔大学) 林 恭裕

(全国社会福祉協議会) 古田 清美

### (1) 第6号・第7号

現在編集中です。もう少し、お待ちください。

### (2) 研究大会臨時増刊号

2010年12月12日に関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催されました第11回研究大会におけるシンポジウム「福祉・介護の実践としての情報の活用 —高齢者介護サービスの効率化と安定化—」を中心した研究大会臨時増刊号を、本年6月に刊行予定です。

### (3) 第8号

第8号の原稿投稿は2011年1月末日を締め切りとしておりましたが、多少の猶予はございますので、これからの投稿を希望される方は学会事務局まで至急ご一報ください。

## 6. 追悼 開原成允先生を偲んで

日本福祉介護情報学会会長

(国際医療福祉大学) 高橋 紘士

国際医療福祉大学副学長兼大学院院長の開原成允先生が1月12日に急逝されました。享年74歳でした。

先生は東京大学医学部教授として、東大病院で初代の中央医療情報部長を務められ、医療情報学の創始者でもあり、その第一人者でした。また、国際医療情報学連盟会長などを務められ、国際的にも大きな活躍をされました。

とりわけ退官後就任された、(財)医療情報システム開発センター理事長時代には、ちょうどスタートした介護保険の情報システム化にも取り組まれ、高橋、森本、生田、前田各理事など本学会のメンバーとも共同研究に参画する機会をおつくりいただきました。また、その後、厚労省老健局で要介護認定の改定についての委員会の責任者、医療福祉にまたがる情報化ビジョン、個人情報保護などのガイドライン作成の責任者なども務められ、本来のご専門である医療情報だけではなく、福祉・介護情報の研究・発展にも多大な貢献をなされました。

医療だけではなく広範囲のご関心とご見識をお持ちの方で、一層のご活躍、社会的貢献を果たされるお立場であっただけに、急逝されたことは、社会的にも大きな損失であるというほかはありません。

ここに、つつしんでご冥福をお祈りします。

## 7. 事務局から

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
(東京都社会福祉協議会) 須永 誠

### (1) 次年度(2011年度)の研究大会について

本号記事でご報告しましたように、本学会では研究大会を、例年11月下旬から12月初旬頃に、地域を移しながら開催しております。

最近では、首都圏 → 関西圏 → 首都圏 → 東北・北海道 の順が定着してきており、来年度は首都圏の田園調布学園大学の会員の皆様に企画運営をお願いし、同大学を会場に開催する予定です。To Do リストにご予定ください。

### (2) ご連絡をお忘れなく

ご所属等の変更を予定されている会員におかれては、事務局あてにお早めにお知らせください。今後、さらに紀要第6号ほかの送付も予定されておりますので、ご協力をお願いいたします。

### ■会員加入状況 (2010年12月末日現在)

正会員 120 名 / 学生会員 18 名 / 名誉会員 1 名

~~~~~      ~~~~~      ~~~~~      ~~~~~

### (編集後記)

会員の皆様、寒中お見舞い申し上げます。

岩手も数年ぶりの大雪で、停電や倒木など被害がでております。このような時に、孤立を防ぐ生活支援としての福祉情報の重要性を痛感します。

さて、理事の皆様等に執筆の労をとっていただいたおかげで、本年度も予定通り3号の発刊にたどりつくことができました。今号の特徴は、福祉情報の動向としてISO27001/ISMS 認証取得の意義についての記事を掲載できたことです。江戸川光照苑の認証取得に心からお慶び申し上げますとともに、苑長である水野様のご執筆に深謝の意を表します。同苑の先進的な取り組みについては、施設のHPと苑長ブログにも掲載されておりますので、併せてご覧いただければ幸いです。

時節柄、会員の皆さまにはくれぐれもご自愛ください。

日本福祉介護情報学会理事・ニュースレター担当  
(岩手県立大学) 小川 晃子